



hida

広報

ひだ

町木



第11号
肥田町
郷づくり委員会
H10.11.10発行

郷づくりの 推進にあたって

肥田町の誇れる恵まれた自然環境、歴史を知り、先人の残された伝統に感謝する心を次代の人々に伝え、引き継いで、肥田に生まれてよかった、住んでよかったと思える心豊かな、明るい郷づくりを目指して郷づくり委員会が発足して二年が経過致しました。

委員一同、懸命な努力をして参りましたが、啓発の不足か今一つ郷づくり活動が盛り上がりにかけていた事を残念に思っております。又きびしい公共の財政状況の中、補助に頼る郷づくりの難しさも実感しております。

改めて郷づくり委員会の果す役割は何かを協議し、委員会は長期計画を樹て、町内各位の御理解を得て、自治会組織を通して目的を達成する事が役割である事を確認して自治会組織とより連携、調整を蜜にして、より一層の推進をする事となりました。

その第一歩として、先日、中島市長を肥田町公民館にお招きして、肥田町の要望を直接にお願いたしました。

皆様のよりよい御意見、御提案を頂くと共に、暖かい御理解と御協力により目的達成に尽力いたす所存です。

郷づくり委員会 藤野慶三郎
(事業報告・計画は別添致します。)

救命講座開催される 自治会福祉部

去る10月3日、本年度第2回福祉部事業の一環として、彦根市消防署のご協力により、救命講座を開催、三十数名の方々に受講していただきました。終始なごやかな雰囲気の中、しかも緊急時の真剣な実技を体験され、価値高い講座であったと思えます。受講の皆様ご苦労さまでした。

救命講座を受講して

成宮 爲夫



10月3日、彦根市消防署南分署の方による救命講座が実施された。まわりの人の異変に気づいた時、最も弱い頭に血液が止まらずに流れるように、意識や呼吸、脈を確かめ、人工呼吸をするまでの手順を習いました。救急車が到着までの5分間の処置で生死が決まりかねない話に、「自分も助けられた」「まむしにかまれた時は」、「水におぼれた時は」どうするのか、

など、にぎやかな中に貴重な体験をしました。



西田 操

今回の救命講座では、応急手当の基本を教えてくださいました。中でも人工呼吸、心肺蘇生法は人形をモデルに実演で教えていただき、大変いい体験をさせてもらったと思います。119番に連絡し、救急車が到着するまでの間に、人工呼吸が出来、心肺蘇生が出来れば助かる率が違うと聞き、実演講習を受ける手に力が入りました。よい勉強をさせていただきました。

「肥田町文化祭」

盛会裡に終わる！

去る10月25日に、肥田町公民館で、町内の各種団体の協賛を得て、恒例の肥田町文化祭が、開催された。

天候も幸いに秋晴れに恵



まれ、午前九時から午後四時までの展示中、見学者の途絶える事なく、にぎやかに華やかに、盛会裡に終える事が出来、深く感謝申し上げます。

本年度の文化祭には、81名、126点の丹精こめた多種多様な作品や、菊花、盆栽生花などを出展して頂き、一年かけて製作された秀作から、私たちの力でここまで出来る!!と感心させられる逸品等、見学者にわずかな一時を夢と感動の世界にいだないました。



この文化祭の準備、接待、後片づけに関係各位には、

精神的に奉仕いただき、厚くお礼申し上げます。

今後とも、ますます充実した文化祭になるよう、皆様のご尽力をお願いし、お礼とさせていただきます。

自治会文教部長 藤野 眞理

お誕生おめでとう

なまえ 生年月日 父の名
隆稀ちゃん H10・10・3 筒井隆智さん

ご結婚おめでとう

松村庄之丞さん 幸恵さん (平10・9・20)

老いを想う

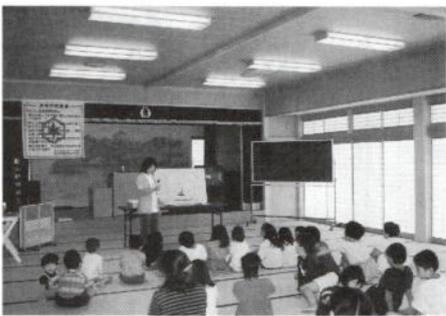
私も来年1月7日で満68才となる。「老い」はだれでもが通る道、それを真正直に、又素直に生きて、自分の新しい部分を発見したときは年甲斐もなくおどろいたり、どう対処したらよいのかと右往左往することがある。結局は、自分を取り巻く環境に従ったよりよい方法を見つけて行く。現実の身の処し方としては、基本的にはそうするより仕方ないと思う。現在の私たちの年齢の者は、その若い時代、老後の事など思うゆとりなどなかった。戦争で国のため一身を捨てるといふ教育をたたきこまれ、身近な人間、私の父などもそうであったように戦場に送るのを誇りとする生活の中で明日を夢見ることなど不可能であった。又、敗戦のあとは今日を生きたため食べることに追われてきたものである。中年になって、やっと明日を考えるゆとりを持てるかと思つたときは、高度成長期という消費はなやかなりし時代であった。又、高令化社会の到来といわれはじめたのは、つい最近のことである。自分も六十代の終りに近づくにつけ母の死をまのあたりに遭遇し、自分が高令化の眞只中にあることをより現実のものとして受けとめていく。今、高令者と云われる年齢の人は殆んどは、私と同じような時代を同じように生きてきたといえるのではないかと思う。私はこの同時代を生きた人には通じ合う心があるから友人知人として、よりよいつき合いを大切に心を開きながら、又、世代のちがう人たちは少しは見栄を張ってでも明るい老いの姿を見せていきたいものだと思ふ。又、これから老いに足を踏み入れるという年代の

人やずつと若い世代の人には、現実の暮しを充実させると共に、明日への人生設計を忘れないでほしいと心からそう思う。それが私たちのように自分の明日をも考えるゆとりがなく、生きてきてしまったものの心からの願いである。今日も又老いの身にむち打って働く今日此頃である。

東大阪市在住 薩摩 武男
(薩摩茂和氏 長兄)

第二回 「文庫まつり」を開く

10月11日には、文庫まつりを行ないました。今回は彦根市児童図書研究グループの皆さんによるお話や大型紙芝居・パネルシアターなどで楽しい読書のつどいになりました。幼児期から本の読み聞かせや自ら本に親しむことによつて、感動する心を養いたいものです。



読書は子ども達に、豊かな感性や情操、思いやりの心をはぐくむ上でたいせつなことです。これからも家庭において、いっそう読書を楽しむ習慣をつくっていきたいものです。

私の趣味

藤野 吉子



私は花が好きで、早くから花づくりに関心をもっています。二十年前ほど前、長楽寺の前和尚さんから、「君子らん」の苗を一本いた

ごませてもらえるものです。これからもいっそう花づくりに趣味として続けたいと思っています。

私の趣味

藤野 千代

肥田のまちに、数々のあいさつ標語に目にかかります。暖かい感動が伝わると同時に、改めてあいさつの大切さに気づきます。私が句作りに興味をもちましたのは、老人会の冠句募集に参加させて頂き、ご指導を受けたのがきっかけです。時折りに、心の動きを句や詩に表現してみました。

ほのぼのと 後世に遺る 肥田町史
伝統床かきき 歴史徳べり

文化祭 見事な傑作 勢ぞろい

地図変る 田園地区が 繁華街

照らされて 嬉し恥かし 法の道

熱いお茶 今日無事にと 手を合す

「道はるか 果なき望み 抱きつづけ」

(平成10年度 彦根市民文芸作品入選作)

だきました。大事に育てましたが、5年程たつて、ようやく、待ちに待ったきれいな花が咲いた時の感激は、今でも忘れることはできません。昭和62年には、稲枝地区公民館で、当時の館長、建部先生のご指導で「洋らんサークル」に参加し、特に洋らんに興味をもちました。今日まで、ずい分苦心もし、失敗もありましたが、洋らん特有のかわいい花が咲いた時の喜びはひとしおで長い月日の苦勞もふつとびました。

らんの種類も多いですが、私は、シンビジューム・オンシジューム、君子らんを主として育てています。君子らんは、その後数回の株分けを行ない、今では10数鉢にもなり、毎年5月には見事な花を開いてくれます。

らんに限らず、どのような花でも、毎日心をかけて世話をすれば必ず期待にこたえて力一ぱいきれいな花を咲かせ、私たちの目をな

